

りんごとワインの町を守る「空気神社」

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

8月8日(木)・9日(金)の両日、北海道・東北六県ブロック会議が開催され、山形県の鈴木浩幸理事(朝日町長)にお世話になって、地元にお邪魔しました。朝日町はりんごとワインが特産品の町です。りんごは袋掛けを行わない「無袋りんご」が栽培されており、ブランド化しています。袋をかけないで作るりんごは有機栽培であって、自然のままの状態です。受粉するので大変おいしいのだそうです。

朝日町では、町長が会長となって「朝日りんごの里協議会」が作られています。りんご農家も後継者不足は深刻であり、協議会では「あさひ里親農家の会」などの取組みを開始しました。これは、りんごの樹園地を次世代に引き継ぐため、移住してりんご経営を行いたいと希望する人を対象として、農家とのマッチングから研修・就農・生活に至るまで一貫して支援しようというものです。

もう一つの朝日町の名物であるワインは、平成28年の伊勢志摩サミットの昼食会に提供されたほど品質の高いものです。その関連で、当時の皇太子殿下が朝日町を行啓され、ワイン醸造所をご覧になったとのことでした。

さて、りんごとワインの朝日町には、高地に当たる場所にスキー場があり、その近くに「空気神社」があります。なんと「空気」を御神体とする神社なのだそうです。

これは昭和40年代に、ある林業者が「空気こそ最も大切なものだ」と提唱され、平成2年に町の有志により住民から募金を募って造営されました。今回の会議はスキー場の頂上にあるAsahi自然館で行われましたので、翌日、私たちも、空気神社を視察させていただきました。

森林の山道を木火土金水という5つのモニュメントをたどりながら登っていくと、緑の樹林に囲まれた奥に、銀色の舞台状のものが 있습니다。この舞台を取り巻く「空気」こそが御神体なのだそうです。神殿は地下に格納されていて、毎年6月のお祭りの際には地上に現れ、舞台では小学生の巫女たちが舞を踊るのだということでした。

確かに森林が生み出している産物の中では、酸素こそが一番大切なものと言えるでしょう。近年は脱炭素が地球規模の喫緊の課題として注目されていますが、酸素ばかりは植物でなければ生み出すことができません。そして私たちは10分間も酸素が供給されなければ、窒息して死んでしまうでしょう。

こうした人間にとって最も大切なものを思い起こさせる神社であり、御神体である清らかな空気は、空へとつながり、朝日町を包んでいます。りんご・ワイン作りをはじめとして、人々が平和に暮らす町をこれからも見守ってくれることでしょう。